

講演会報告書

学観連メンバー各位

11月28日(土)に横浜商科大学つるみキャンパスで開催された講演会について報告させていただきます。

講演会には、9の観光関連大学の学生67名と大学教員や観光関連団体・企業から8名が参加してくださいました。

5人の講師によるゼミ形式の講演会とパネルディスカッションを通して、「これからの観光を担う学生に期待すること」をテーマに基づいた活発な意見交換が行われました。

観光カリスマ3人と日本旅行業協会やJTB法人東京から5人の講師が、お忙しい中ボランティアで駆けつけ、学生達を前に熱く語って下さいました。



<講演会>

講師の先生によるゼミ形式での講演会(講話90分、質疑30分)の様子です。(Q&Aは質疑)

1. 澤 功 氏 (観光カリスマ 澤の屋旅館 館主)

2003年、下町の外国人もてなしカリスマとして観光カリスマに認定される。

◇講演内容の重要ポイント

① ホスピタリティ:

ゲストと対等な関係であること。日本を理解する糸口となる澤の屋であること。

② 文化を受け入れること:

文化は上下関係ではなく、お互いに違うだけであり、それを理解し受け入れることが大切である。

③ 町全体での受け入れ体制:

外国人を特別扱いすることなく日常生活に溶け込ませる。

町の人とのふれあいが旅の大切なこと。観光とは人!来た人を拒まない町の体制。



Q1 澤さんのおもてなしの心とは？

⇒日本人全体で受け入れること。言葉ではなくコミュニケーションをとろうとすることが大切である。迎える心があればいい。

Q2 何かトラブルはありましたか？

⇒特になかった。外国人客の受け入れが自然に、なされたことがよかった。

旅館の中では大したことができないと自覚し、町の人に協力をお願いした。

2. 河合 進 氏 (観光カリスマ 元新治村助役)

観光振興と地域活性化を促進するという独特の『たくみの里』構想を推進することにより、村民と観光客も喜ぶ観光地づくりに成功した。2004年観光、まちづくりの観光カリスマに、認定される。

◇講演内容の重要ポイント

①行政の役割

②たくみの里の具体化

③観光地リニューアル計画

お話を聞いて私たち学生は、これからの学生生活をどう過ごしたらいいか。

魅力が多い観光地ばかりにフィールドワーク（以下FW）をするのではなく、あえて過疎化が進んでいる地域などへ行って大学生（若者）の考え方、大学の授業で得た知識を生かして、行うFWも行うべきだ。また新しいものを求めるだけでなく日本が誇る文化を再認識させる取り組みをしたいとも感じた。

Q1 河合さんは、今何に取り組んでいますか？

⇒昔のお城や文学館などの施設を利用し活用しながら再生していこうと努力している。

また、私たちのような学生を呼び今の状況を見て感じてもらい、改善案などを一緒に考えたいと思っている。

3. 船木 上次 氏 (株式会社 萌木の村 社長)

清里の本物のホスピタリティと感動を与えることができる地域文化のある観光地にするべく、地道に独特の活動を続け、2003年に開拓魂のカリスマとして観光カリスマに認定される。

◇講演会の重要ポイント

①まちづくり=その土地の個性を活かすこと。ほかに流されないこと

②人生の財産は感動 試練は最高の贈り物だと思う

◇講演会のお話を聞いて私たちは、これからの学生生活をどのように過ごしたらいいか

観光で活躍する人材になるためには、まず自分に誇りを持ち価値のある人間になるべき。観光地も人も個性を失って、均一化したら終わり、だから自分の個性を大切に生きていくべき。

Q1 ITを使った事業が拡大していく中で、清里ではITをどのように利用し位置づけていますか？

⇒新しいものだけを入れるだけ魅力が生まれるわけではない。むしろその土地のいいところを知り魅力を見出していくことが大切。ITを使うことは、今の時代欠かせないことだが、全てITを使う必要はない。なんでも、使い勝手のよい方向へもっていこうとする東京に、近づこうとしてもそこには、清里らしい魅力は生まれない。

4. 久保田 達之助 氏 (JTB 法人東京 コミュニケーション事業開発担当部長)

JTB 法人東京の事業開発部の部長を務める久保田氏は、2008 年からは旅を基軸とした事業開発を担務し、事業展開を広げる。

◇講演会の重要ポイント

- ①人を喜ばせることができる人
- ②効率よく、遊び、仕事ができる人 (プロデュース力がある人)
- ③人のマネをしないで、NO1 を狙いマーケットシェアを勝ち取る

JTB 法人東京で必要とされる人材

変化に対応でき、自律し行動し、進化を遂げられる人⇒プロフェッショナルな人
アイデアを持ち最後まで責任を持って企画できる人

◇講演会の話聞いた私たちは、これからの学生生活をどのように過ごしたらいいか
人を喜ばせることに喜びを感じられるような人になること。

日頃から、それを意識して生活していきただけで変わってくる。また、いろんな人と出会い
語ることによって自分の視野を広げることができて、自分の引き出しが多くなり、変化に
対応できる人間になることができる。

⇒自律・創造をできる人間が、成長することができる

Q1 素晴らしいアイデアで、いろんな仕事を成功させる久保田さんの発想力はどうやって
身につけているのか。

⇒時間を有効活用し、仕事終わりに社外でたくさんの人と交流すること。残業をしないよ
うに仕事を要領よく終わらし、仕事終われば業界の人や、学生と交流し、お互いに情報交
換をして、そこで得た情報と仕事が繋がらないかと常に考えている。

5. 保坂 明彦氏 (日本観光業協会 海外旅行業務部)

2009 年 4 月より日本旅行業協会海外旅行業務部マネージャーとして、広く行政や関係機関
と連携して、日本人の買い芸旅行者を増加させるための業務を務めている。

◇講演会の重要ポイント

- ①経済を発達させるのに、日本市場は少子高齢化を考える必要がある。
- ②ビジットジャパンキャンペーンの最善方法についてエアラインを主に考える必要がある。

◇講演会の話聞いた私たちは、これからの学生生活をどのように過ごしたらいいか

自分たちなりに学生の視点から観光に対して環境、貧困などの問題意識を持つ。そして、発見力を成長させようと思っている。また、学生はお金はないが、責任の所在もないのだからその武器を最大限に利用し、充実している学生生活を送りたい。

<パネルディスカッション>

その後のパネルディスカッション（50分）まとめ

上記5名に学観連顧問である横浜商科大学宍戸学先生が加わる。



はじめにパネリスト5名より、講演会の内容を踏まえ、「学生達は地域に足を運ぶ必要性があること」、「学生達の気づきをもとに業界や地域と一緒に観光に取り組むことへの期待」などが提起されました。その後、学生達から多数の質問が出た。観光人材として何をなすべきかという問いかけに、「問題意識をしっかりと持つこと」「最終的には人間

力である」という指摘がありました。また、最近の観光学への注目をどう考えるかについては、「観光学への注目はチャンスでもあり、産業界や政策の発展に学術的な位置づけを期待する」という声がある一方で、「机上の学びに終わらずに、地域に出て、さまざまな人々と交わることで学ぶことの重要性」が示唆されました。最後に、学生だからこそ持っている若さと感性、未熟さを、むしろ強みとし、外部連携して活動を進めようとする学観連への激励が相次ぎました。顧問の宍戸氏は、講師諸氏へ深い謝意を示すとともに、講師の方々が、信念と持続力を持ち、多くの人々とのつながりを強固にしながらも、強い情熱をもって結果を出してきたことに触れ、このような観光現場の方々と協働することで、その背中から学ぶことに意義があるとしめくくられました。

最後に・・・

今回は通常の講演会とは違い、5名の講演者の方をお呼びしてゼミ形式で行い少人数の学生を相手にしていただいたのは、講演者の方と学生との交流がより深く行われることが目的でした。

今回参加した皆さんも、この講演会を通して学ぶことがたくさんあったと思います。特に観光においては、机上での学習や話を聞くだけでなく、実際に現場に出て自分の身体を使って体験することが非常に大切だと私たちは考えます。今回の講演会が「外に出て学ぶ」「実際に経験してみる」ということのかかりになれば幸いです。

これからも日本学生観光連盟では「学外での学び」のかかりになるような活動、また実際に「経験する」活動を提供していきたいと思っています。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

また「こういう活動がしたい」というアイデアをお持ちの方は、下記の連絡先までご連絡ください。

アイデア募集 : gakukanren_id@yahoo.co.jp